薄桜記（1959）

メディア 映画
ジャンル 時代劇
製作国 日本
色彩 Color
時間 110分
初公開日 1959/11/22

【解説】
五味康祐の同名小説を「ジャン・有馬の襲撃」の伊藤大輔が脚色し「若き日の信長」の森一生が監督。高田馬場の決闘から吉良邸討ち入りまでの赤穂浪士の物語を背景に、一人の剣豪が悲劇に巻き込まれていく姿を描く。数ある市川雷蔵作品の中でも傑作の誉れ高い一本。
丹下典膳は高田馬場での決闘へ向かう途中の中山安兵衛と出会った。安兵衛の相手が自分と同門の知心流と知りその場を離れる典膳だったが、同門を見捨てたとして師匠から破門を言い渡される。典膳は千春という女性と結ばれるが、留守中に知心流の門弟五人により千春を陵辱されてしまう。五人組に復讐するため、典膳は浪人となり千春と離別し、千春の兄に斬られ片腕を失った。安兵衛は主人である浅野内匠頭の仇討ちのため吉良邸への討ち入りを計画。一方、典膳は吉良家に迎え入れられていた。

【クレジット】
監督 森一生
製作 三浦信夫
企画 財前定生
原作 五味康祐
脚本 伊藤大輔
撮影 本多省三
美術 太田誠一
音楽 斎藤一郎
出演 市川雷蔵
勝新太郎
真城千都世
三田登喜子
大和七海路
北原義郎
島田竜三
千葉敏郎
舟木洋一
伊沢一郎
須賀不二男
清水元
寺島雄作
加茂良子
浅野寿々子
浜世津子

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

香川良介

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.